

2020年度版 ▶▶ 交通事故の実態

2019年度の事故発生状況
(2019.04~2020.03)

 神奈川県自動車交通共済協同組合





2020 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

2019 年度は組合員の交通事故の発生実態を踏まえ、交通事故防止重点項目を掲げ、コメンタリー運転の実践を推進し、組合員の理解と協力のもと、交通事故の防止に向けた取り組みを行いました。

ここに、2020 年度版「交通事故の実態」として、2019 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いに存じます。


2019 年度交通事故防止重点項目

- 交差点事故の根絶
- 追突事故の根絶
- 構内事故の根絶

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

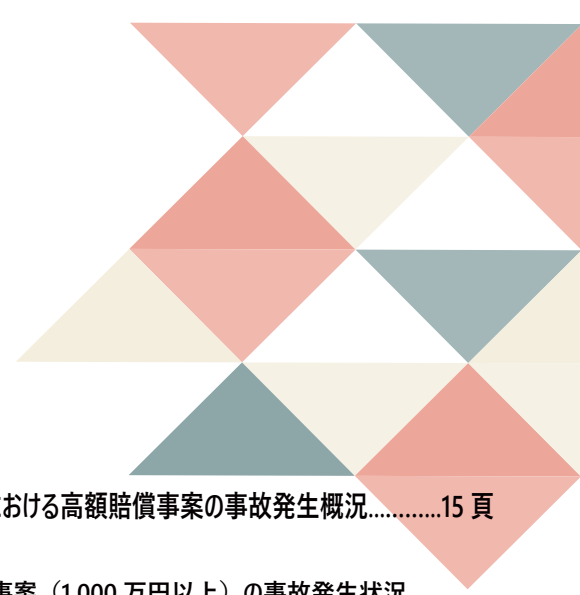
- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

「支払共済金」には、確定前の支払備金も含んでいます。



目次

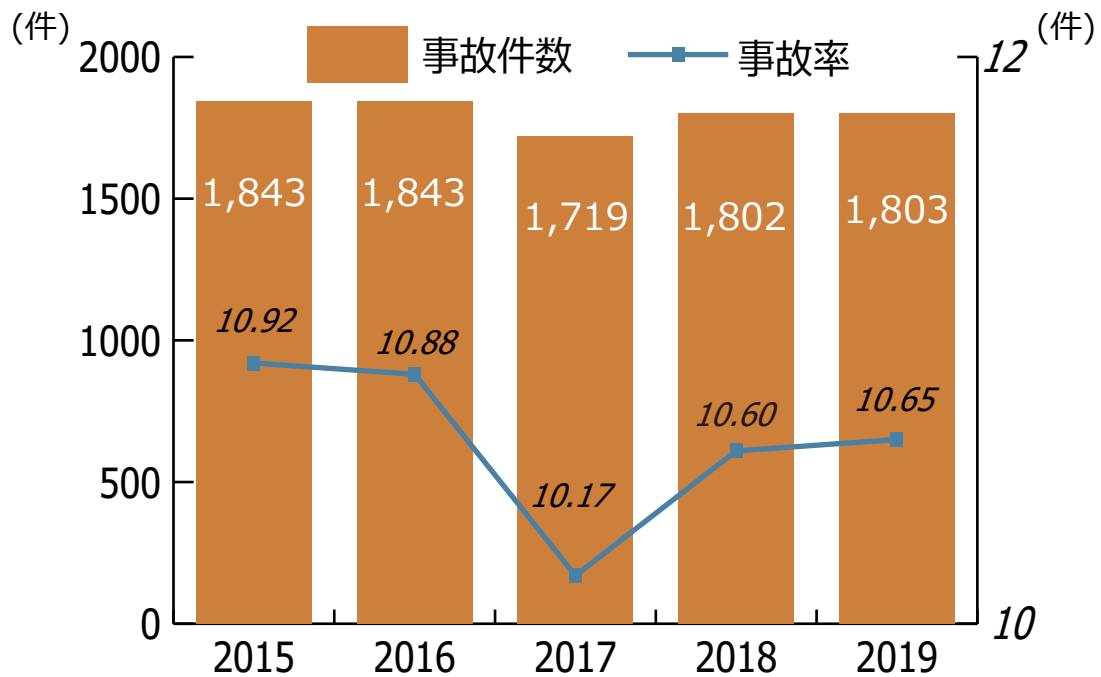
1. 交通事故発生状況（全事故）..... 1 頁	5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生概況..... 15 頁
(1) 事故発生件数と事故率（2015～2019年度）	(1) 対人共済
(2) 月別事故発生件数（2019年度）	① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況
(3) 類型別事故発生件数（2019年度）	② 道路形状別の事故発生状況
(4) 道路形状別事故発生件数（2019年度）	③ 発生時間帯別の事故発生状況
(5) 発生時間帯別事故発生件数（2019年度）	④ 原因別の事故発生状況
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（2019年度）	⑤ 類型別の事故発生状況
(7) 原因別事故発生件数（2019年度）	(2) 対物共済
2. 共済種目別事故発生状況..... 5 頁	① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況
(1) 共済種目別事故発生件数・事故率	② 道路形状別の事故発生状況
(2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）	③ 発生時間帯別の事故発生状況
(3) 対物共済類型別件数	④ 原因別の事故発生状況
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（2019年度）..... 6 頁	⑤ 類型別の事故発生状況
(1) 交差点事故の実態	6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）..... 20 頁
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）	(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）	(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金	(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
(2) 追突事故の実態	7. 2019年度交通事故防止強化月の事故発生状況..... 23 頁
① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）	(1) 月別事故発生件数・事故率
② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金	① 全事故
(3) 構内事故の実態（対物共済）	② 対人共済
① 構内事故の類型別事故状況	③ 対物共済
② 構内事故の原因別事故状況	(2) 道路形状別事故発生割合（全事故）
③ 構内事故の支払共済金	(3) 運転者年齢層別事故発生割合（全事故）
(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）	(4) 類型別事故発生割合（全事故）
① 交通弱者との道路形状別事故状況	(5) 原因別事故発生割合（全事故）
② 交通弱者との原因別事故状況	8. 交協連傘下15組合の2019年度事故発生状況..... 27 頁
③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金	(1) 事故発生状況（対人・対物事故）
④ 交通弱者年齢層と事故発生場所	(2) 原因別事故発生状況（対人事故）
⑤ 交通弱者被害者類型・態様別	(3) 類型別事故発生状況（対人事故）
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金..... 15 頁	(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）



1. 交通事故発生状況（全事故）

（1）事故発生件数と事故率（2015～2019年度）

事故発生件数、事故率ともに2017年度まで減少傾向でしたが、2018年度から2019年度
 に向け事故発生件数は横ばい、事故率は増加となりました。



※事故率は100両当りの1年間の事故発生割合(件数)を示します。

「共済種目別事故発生件数」

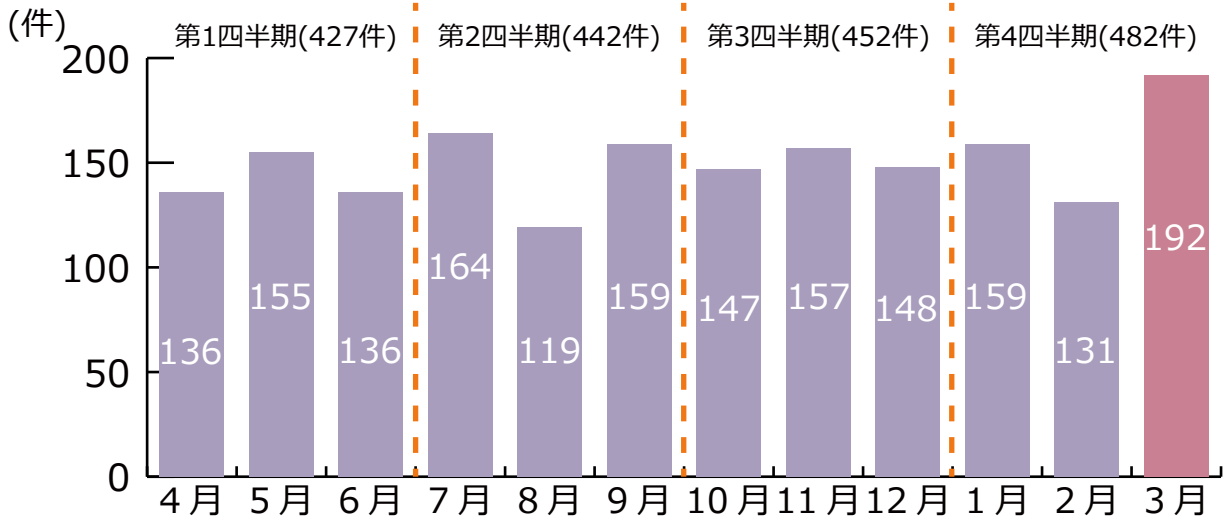
(件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019
対人	463	447	426	412	381
搭傷	8	10	9	7	5
対物	1,617	1,645	1,489	1,602	1,610
車両	117	118	122	112	112
合計	2,205	2,220	2,046	2,133	2,108
全事故件数	1,843	1,843	1,719	1,802	1,803

※全事故の発生件数は、1件の事故につき複数共済種目での受付を含んでいます。また、各年度の決算時の件数を示します。

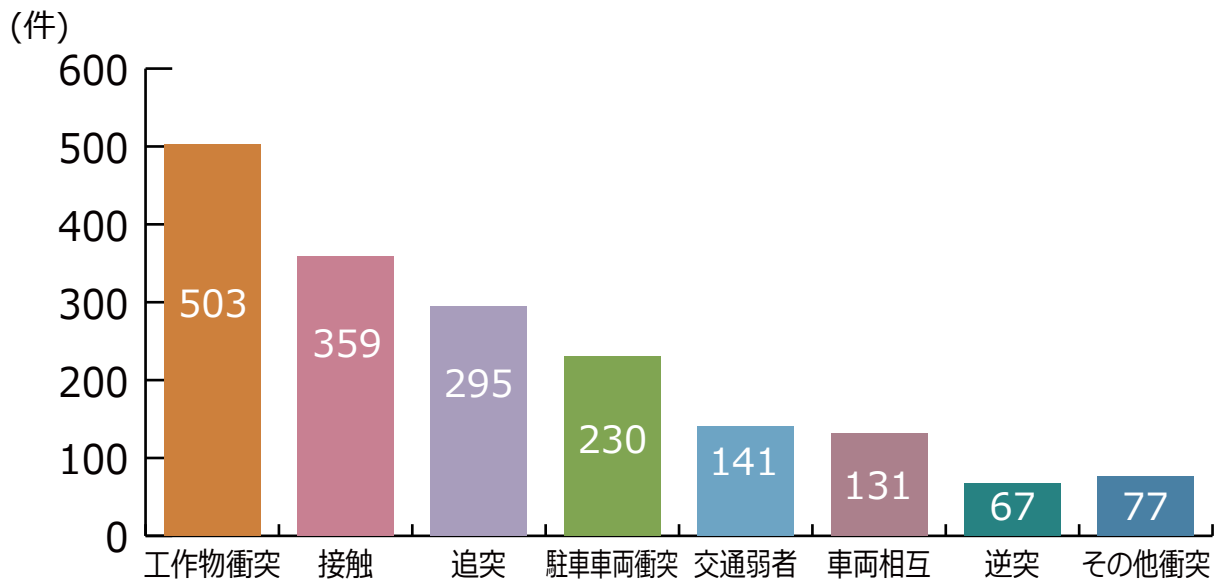
(2) 月別事故発生件数 (2019年度)

月別では、3月が突出して多く、四半期別にみても年度末に向けて1月から3月が482件と最も多く発生しています。



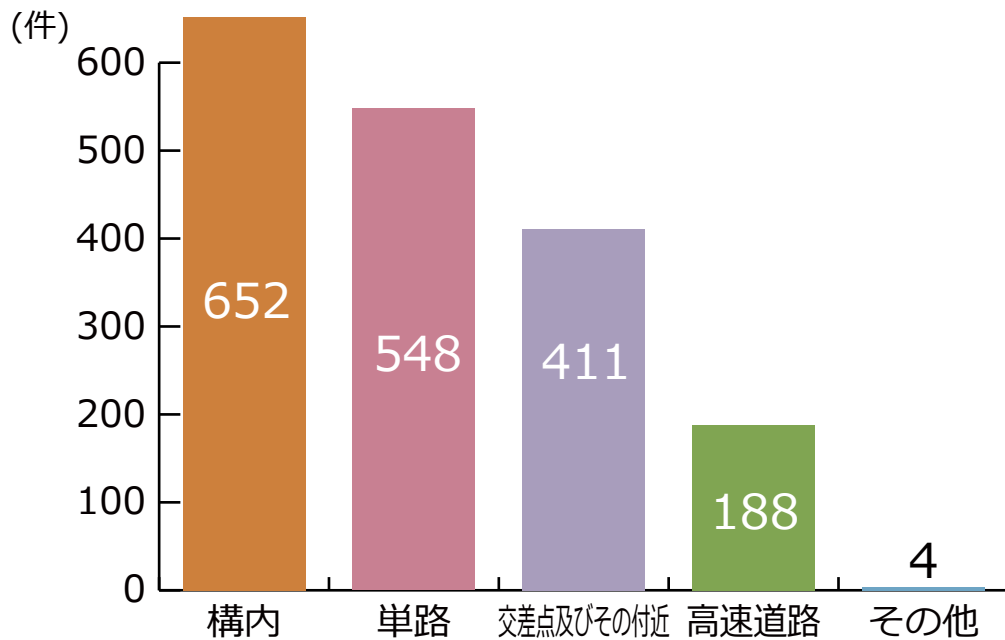
(3) 類型別事故発生件数 (2019年度)

類型別では、工作物への衝突が503件と最も多く、2019年度の全件数1,803件のうち27.9%となっています。



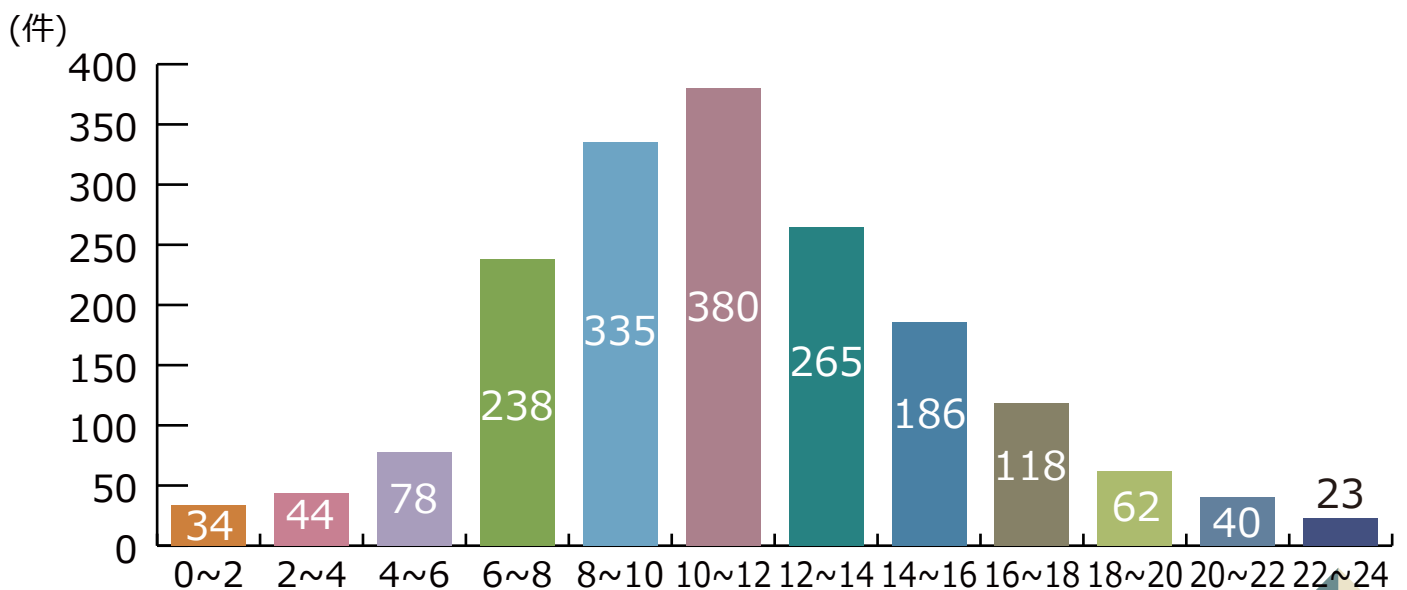
(4) 道路形状別事故発生件数（2019年度）

道路形状別では、構内が最も多く、前年度比で5.2%（32件）増加しました。単路も8.7%（44件）増加しましたが、交差点及びその付近は、前年度比で16.5%（81件）減少しました。



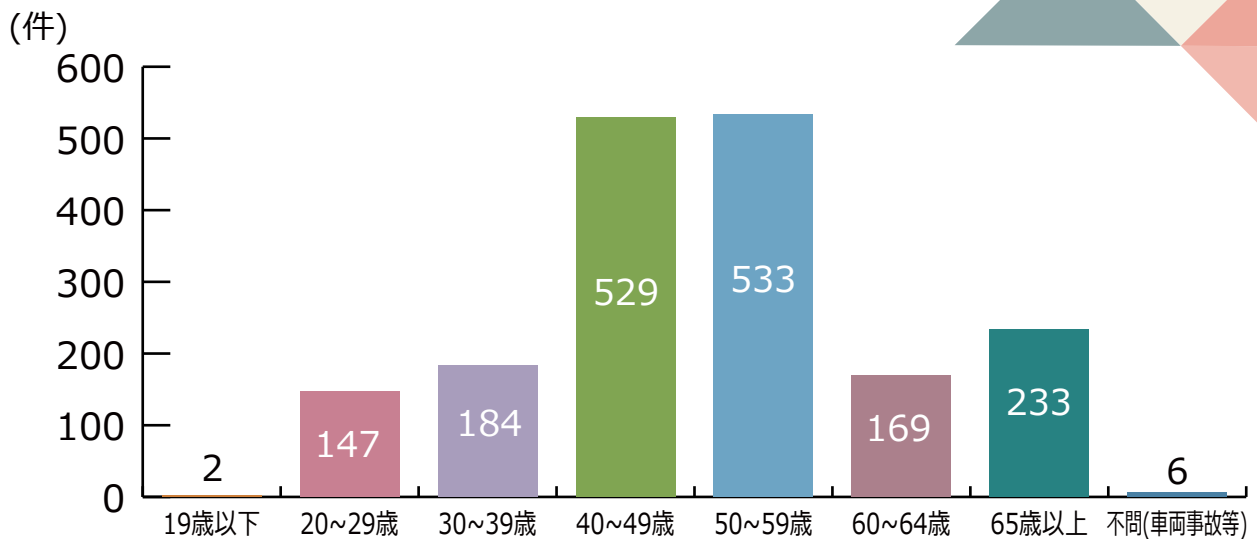
(5) 発生時間帯別事故発生件数（2019年度）

発生時間帯別では、8時から12時までの時間帯が多く、特に10時から12時の時間帯に多発しています。



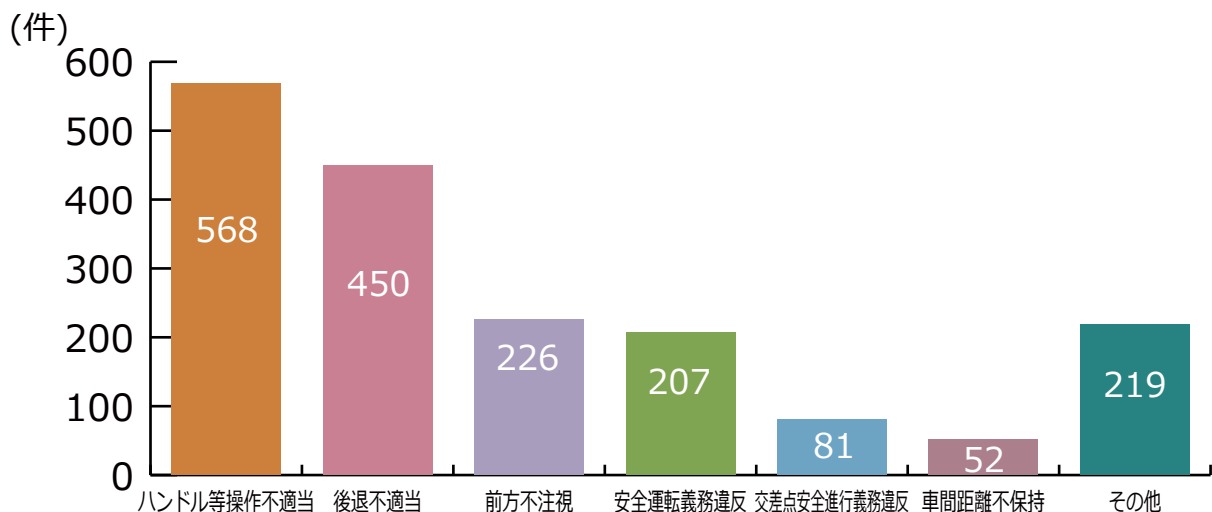
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（2019年度）

運転者年齢別では、50歳代が最も多く、前年度比で5.5%（28件）増加しました。また65歳以上の高齢運転者は前年度比で4人増加の233人で、年々増加傾向にあります。



(7) 原因別事故発生件数（2019年度）

原因別では、ハンドル等操作不適當が最も多く、次いで後退不適當の順に多く発生しています。



道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。



2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

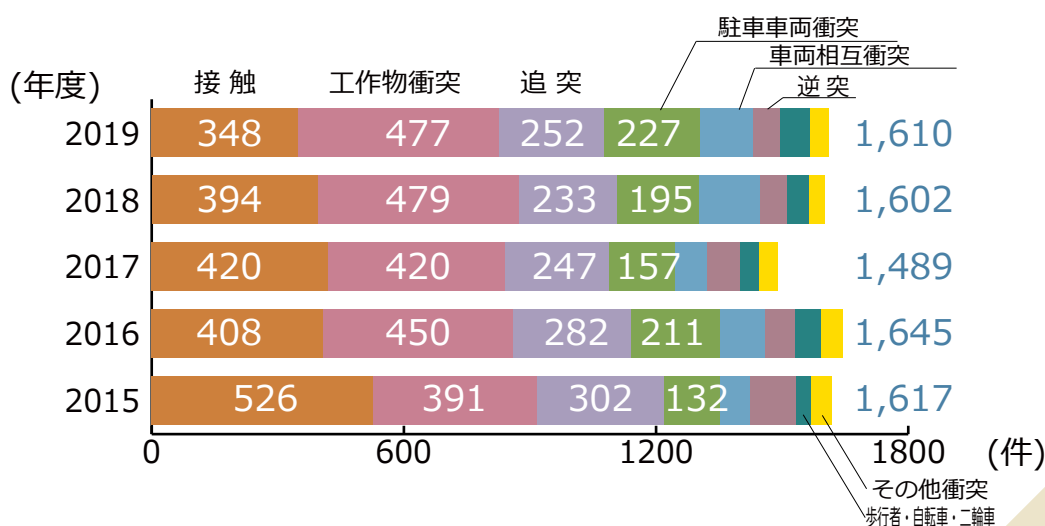
共済種目別		年度	2015	2016	2017	2018	2019
対人	発生件数(件)		463	447	426	412	381
	死者数(人)		10	7	5	7	5
	傷者数(人)		618	592	525	527	473
	事故率(件)		2.74	2.64	2.52	2.42	2.25
搭傷	発生件数(件)		8	10	9	7	5
	事故率(件)		0.13	0.17	0.15	0.11	0.07
対物	発生件数(件)		1,617	1,645	1,489	1,602	1,610
	事故率(件)		12.06	12.29	11.22	11.96	11.86
車両	発生件数(件)		117	118	122	112	112
	事故率(件)		6.51	6.66	6.72	5.93	5.60

(2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

区分	年度	2015	2016	2017	2018	2019
① 死亡(人)		10	7	5	7	5
② 後遺障害(人)		36	27	33	32	28
③ 傷害(人)		582	565	492	495	445
④ 合計(人)		628	599	530	534	478
⑤ ①+②(人)		46	34	38	39	33
⑥ ⑤の④に対する割合(%)		7.3	5.7	7.2	7.3	6.9

(3) 対物共済類型別

対物事故は、過去5年間で最も少ない件数だった2017年度から年々増加傾向にあります。その中で接触事故は減少しているものの、駐車車両衝突は増加しています。

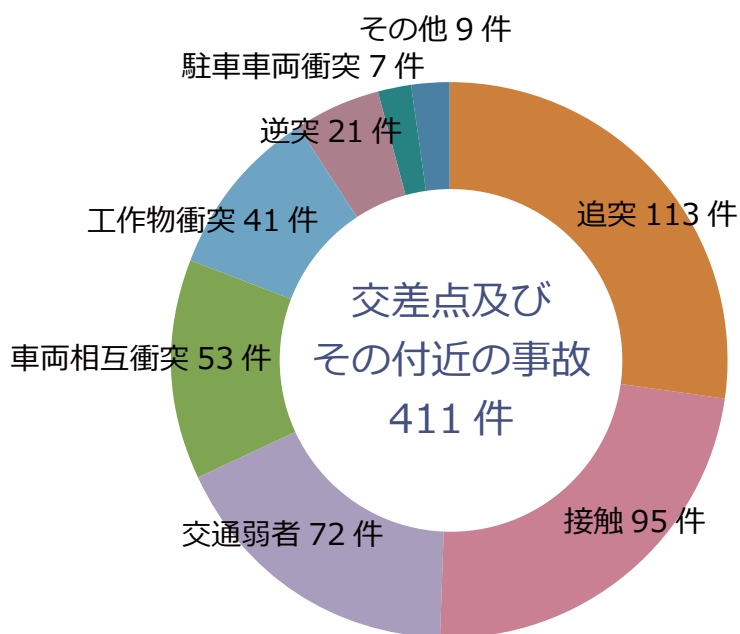


3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（2019年度）

(1) 交差点事故の実態

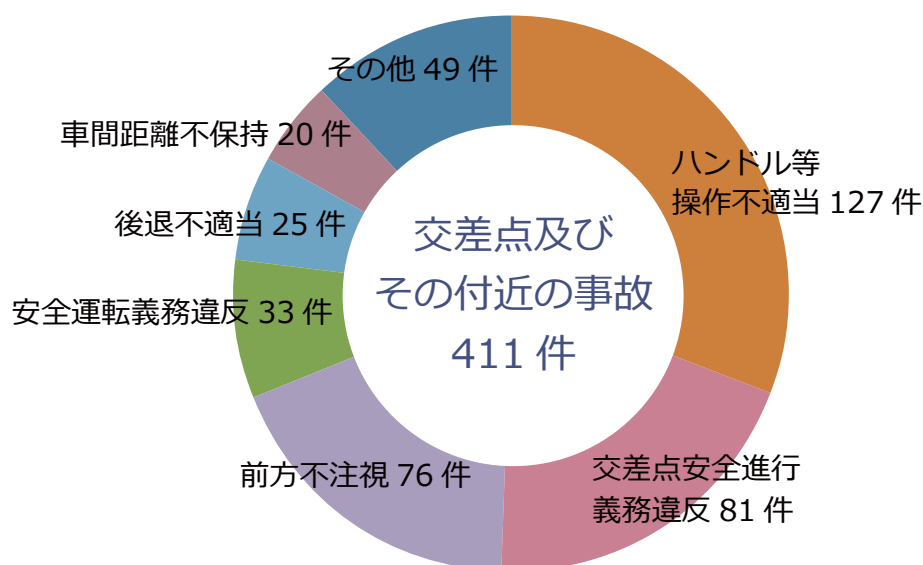
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）

交差点事故の類型別では、追突事故と接触事故で50.6%と全体の半数を占めています。



② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）

交差点事故の原因別では、ハンドル等操作不適當が主な原因となっており、次いで交差点安全進行義務違反、前方不注視の順となっています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金

2019年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金は、対人共済3億1,824万円、対物共済7,292万円、総額で3億9,116万円となり、支払共済金全体の33.7%にあたります。



交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、ハンドル等操作不適當、交差点安全進行義務違反、前方不注意が主な原因となっています。車、人が混在する交差点では、特にコメントリーによる確実な安全確認が必要です。

1. 一時停止と安全確認

交差点は車と歩行者、自転車等が混在する場所です。歩行者、自転車を発見したら停止できる速度に減速し、確実な一時停止と周囲の安全確認をしてから通過してください。

2. かもしれない運転を実践

信号の変わり目の駆け込みなど、予想外の行動を相手がすることがあります。来ないだろうの「だろう運転」から、来るかもしれないの「かもしれない運転」を日頃から実践してください。

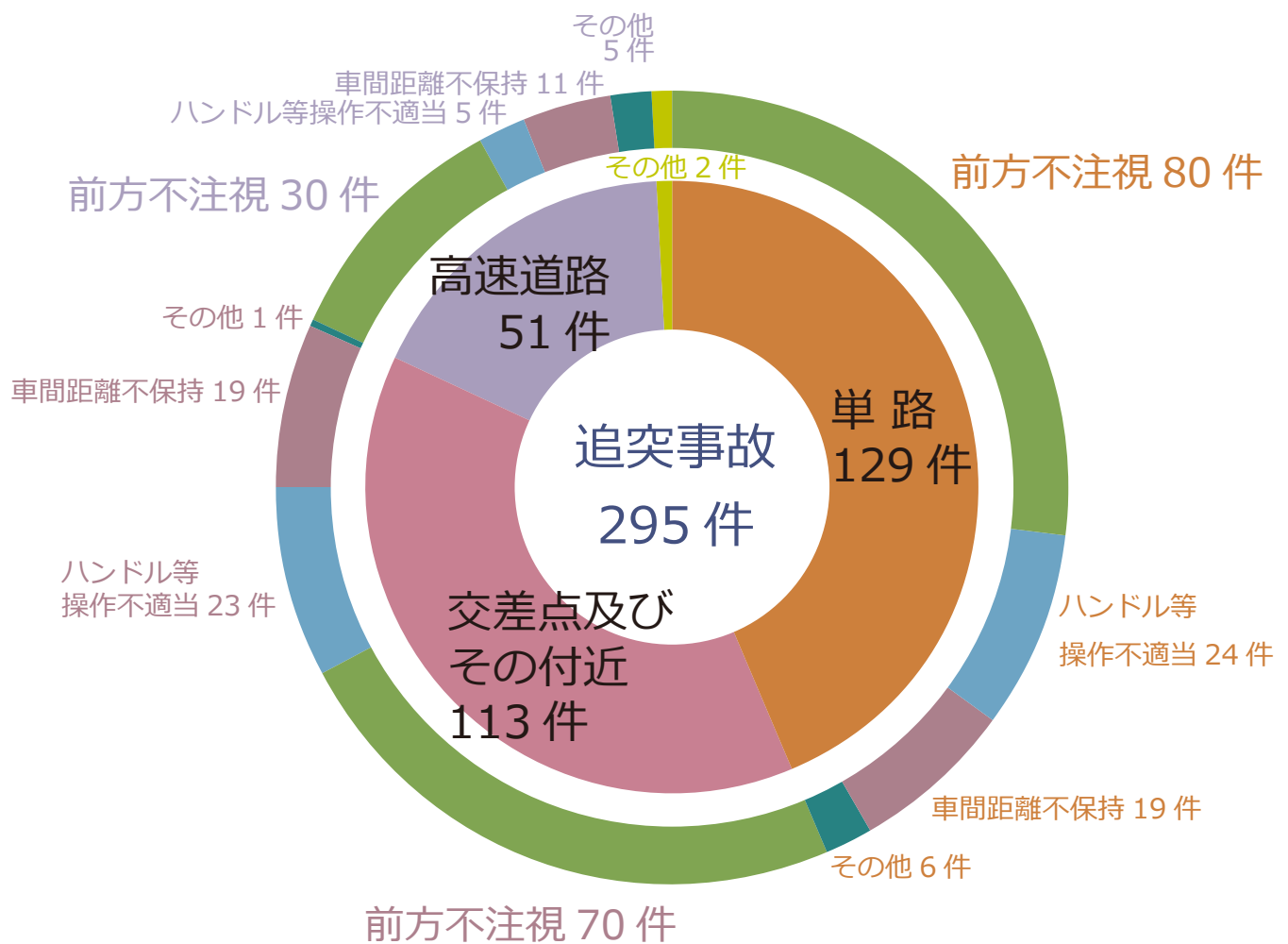
3. コメントリー運転の実践に合わせ右折時の対向車(二輪車)に注意

渋滞の切れ目を右折するときは、「二輪車注意」・「二輪車停止」等と呼称し、二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

(2) 追突事故の実態

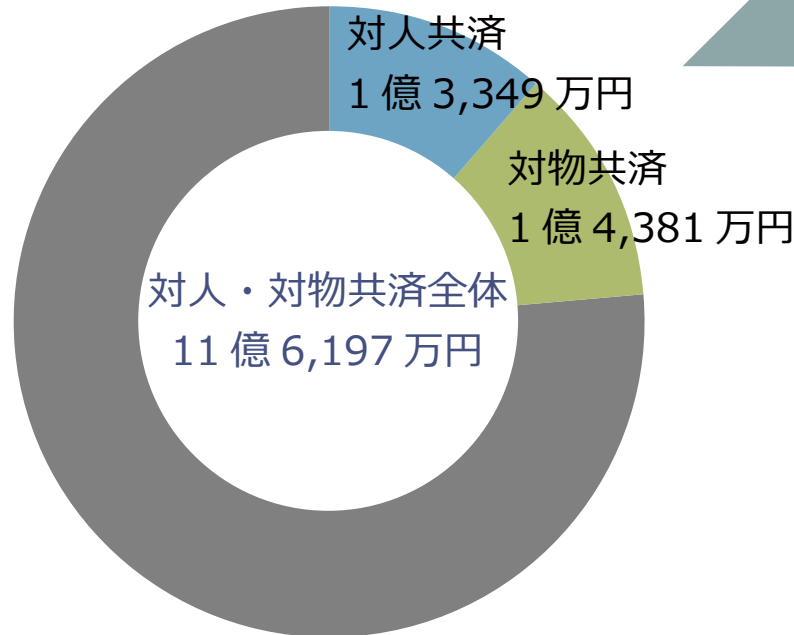
① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

追突事故は、どの発生場所においても前方不注視、ハンドル等操作不適當および車間距離不保持が主な原因となっています。



② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金

2019年度の追突事故による支払共済金は、対人共済1億3,349万円、対物共済1億4,381万円、総額で2億7,730万円となり、支払共済金全体の23.9%にあたります。



追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故の原因の一つとして、脇見やちょっとした不注意により前方車両の発見が遅れ、気付いてからブレーキを踏んだけれど間に合わず追突するケースがあるため、前方を十分注意することが必要です。

1. 脇見につながる行為に注意

渋滞中など速度の出していない時は、気の緩みからつい前方から目線をそらしてしまいがちです。運転中は前車をはじめ周囲の動向に十分注意してください。

2. 運転中のスマートフォン・携帯電話の使用は厳禁

運転中のスマートフォンや携帯電話の使用は事故につながる危険な行為です。スマートフォンや携帯電話を使用する際は、交通の妨げにならない安全な場所に停車してから行いましょう。

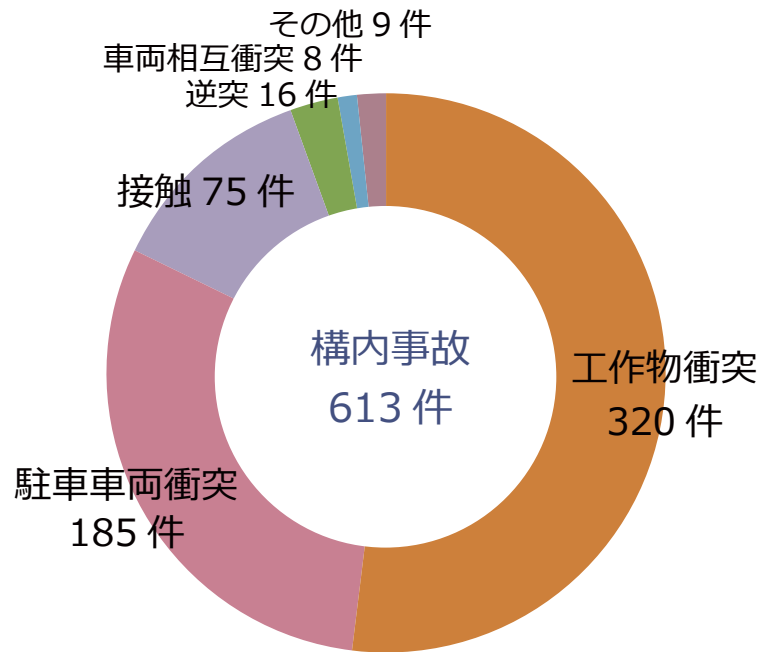
3. コメンタリー運転の実践で事故防止

「信号よし」・「前方よし」・「前車発進よし」・「車間距離注意」など、声に出して、自分の目と耳と声での安全確認を心掛けましょう。

(3) 構内事故の実態（対物共済）

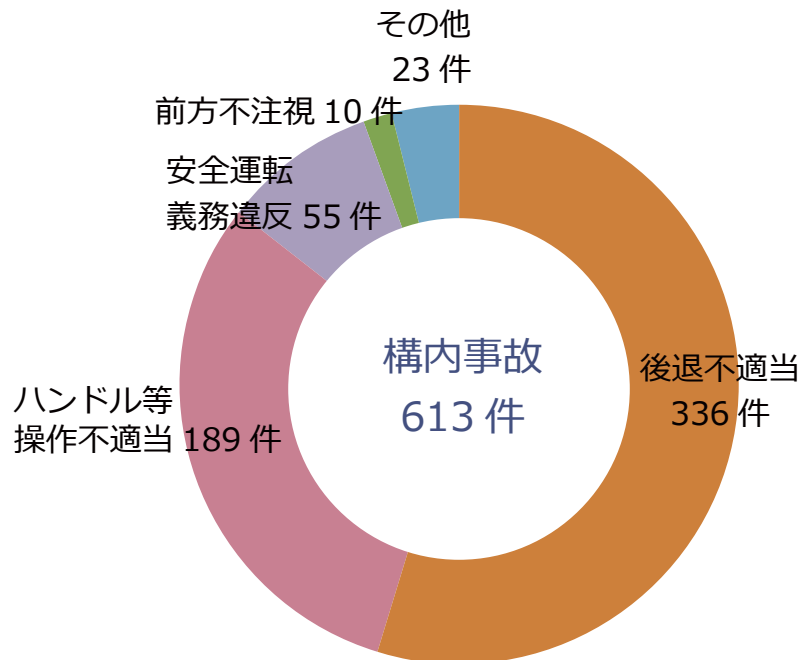
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、工作物への衝突事故が320件発生と最も多く、構内事故全体の52.2%を占めています。



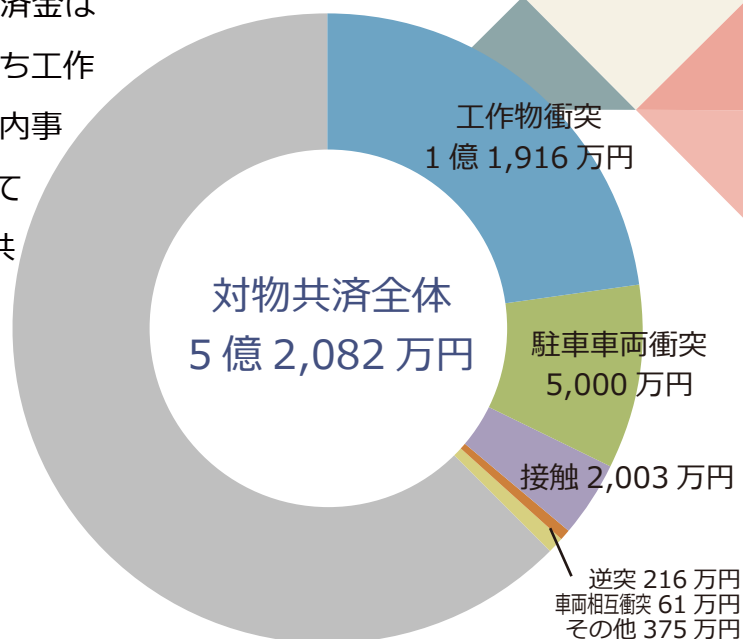
② 構内事故の原因別事故状況

構内事故の原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が336件と54.8%を占めています。



③ 構内事故の支払共済金

2019年度の構内事故による支払共済金は総額で1億9,571万円となり、そのうち工作物への衝突事故が1億1,916万円と構内事故による支払共済金の60.9%を占めています。また、構内事故による支払共済金総額は、支払共済金全体の37.6%にあたります。



構内事故防止のワンポイントアドバイス

構内の事故では、「いつもの構内だから…」と警戒心が低下したこと」が事故の大きな要因となっています。慣れた構内ほど油断しないことが必要です。

1. 後退時の安全確認の徹底

ミラーやバックアイカメラには死角があります。後退時は下車して自分の目で周囲の安全確認をしてください。

2. 確実な運転操作

通り慣れた構内であっても油断せず、落ち着いて確実な運転操作を心掛けてください。

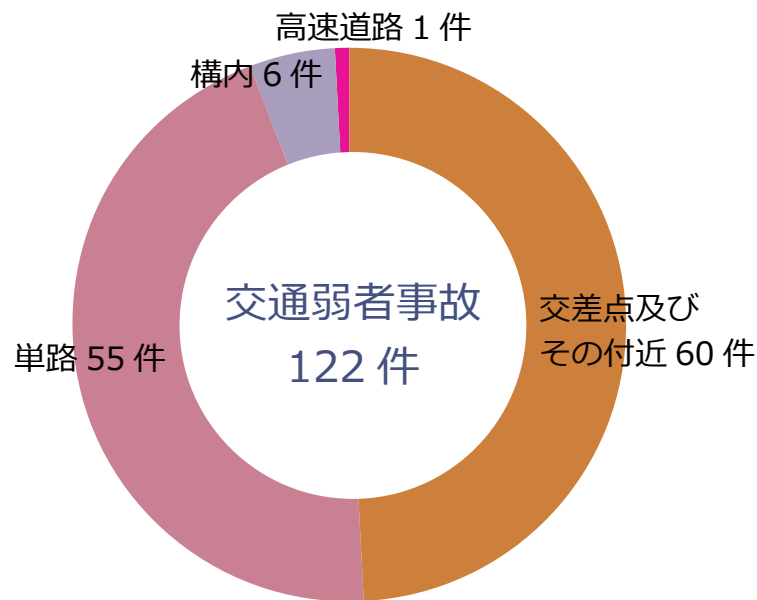
3. 後退時もコメントリー運転の実践

必ず下車確認「上よし」・「後方よし」等と呼称し、安全確認を声に出して事故防止をするという意識を強く持ちましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）

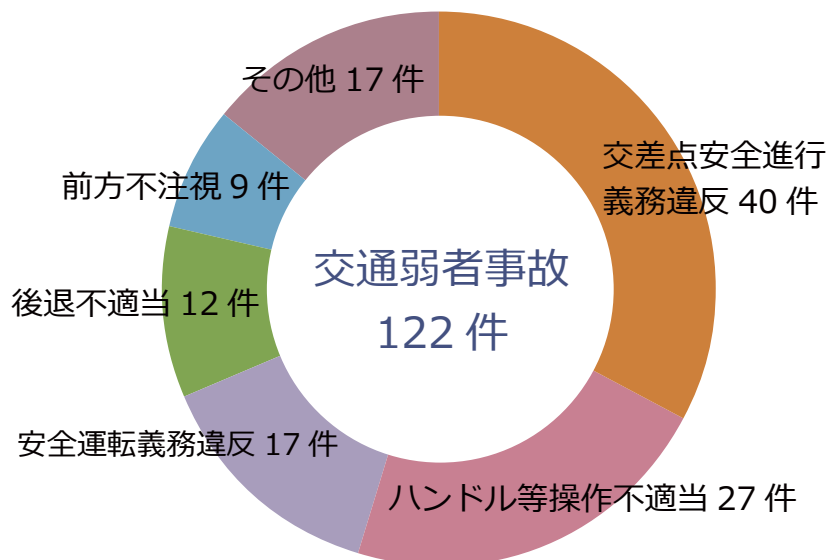
① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者（歩行者27件・自転車50件・二輪車45件）を被害者とする事故では、49.2%と約半数が交差点及びその付近で発生しています。



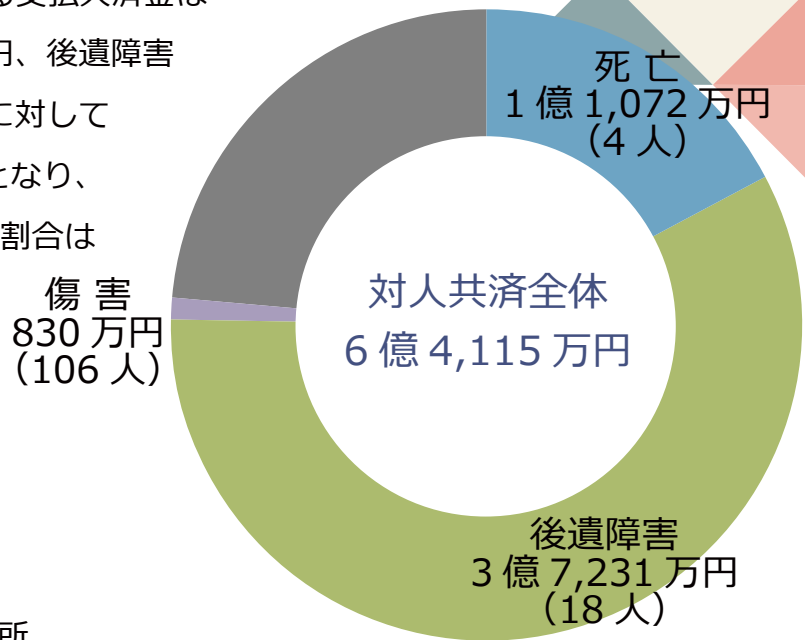
② 交通弱者との原因別事故状況

交通弱者との原因別では、交差点を通過する際、他の車両や歩行者への安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が40件と多く、ハンドル等操作不適當や安全運転義務違反によるものも多く占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金

2019年度の交通弱者に対する支払共済金は
 死亡事故に対して1億1,072万円、後遺障害
 に対して3億7,231万円、傷害に対して
 830万円で総額4億9,133万円となり、
 対人共済全体の支払額に占める割合は
 76.6%となっています。



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者事故件数は122件で被害者数は128人となっています。

発生場所では交差点及びその付近が約半数を占め、被害者年齢層別では50～59歳が最も多くなっています。

(人)

年 齢	場 所					合 計
	交差点及びその付近	単 路	構 内	高速道路		
6 歳以下	4	4				8
7～12 歳	1	1				2
13～15 歳	2	4				6
16～19 歳	8	3				11
20～29 歳	6	11	1			18
30～39 歳	7	13	1	1		22
40～49 歳	13	4				17
50～59 歳	12	11	2			25
60～64 歳	1	1				2
65 歳以上	9	5	3			17
合 計	63	57	7	1		128

⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型別では、自転車が54件と最も多く発生し、全体に占める割合も42.2%となっています。

(人)

被害者態様	交通弱者			合計
	歩行者	自転車	二輪車	
死亡	1	2	1	4
後遺障害	7	7	4	18
傷害	21	45	40	106
合計	29	54	45	128

交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故は、交差点安全進行義務違反、ハンドル等操作不適當、安全運転義務違反が主な原因で発生しています。

1. 周囲の安全確認の徹底

交通弱者との事故は、交差点及びその付近で、脇見運転などによる発見の遅れ、見落としにより発生しています。また後遺障害など重大事故につながりやすいため、交差点通行時は減速し、特に右左折時は周囲の安全確認を十分に行い走行してください。

2. 生活道路の漫然運転による横断歩行者に注意

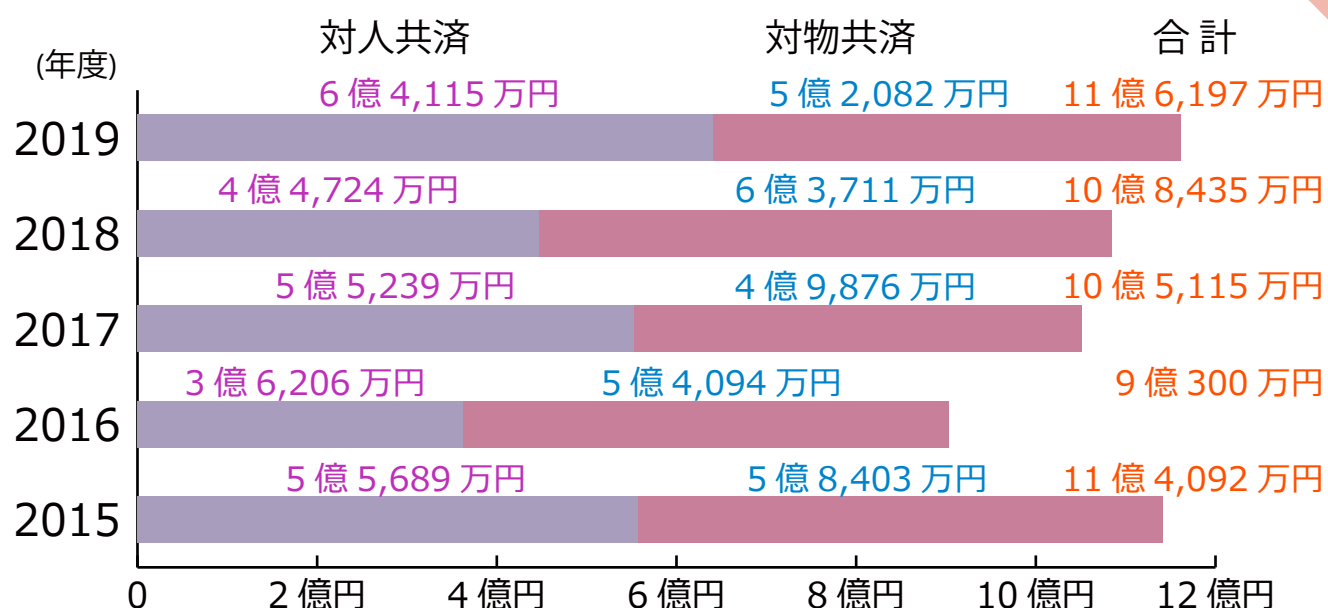
人通りの少ない生活道路では、横断歩道のない場所での高齢者の横断や駐車車両の陰からの子どもの飛び出し等、漫然と運転していると発見が遅れて歩行者事故が発生しますので、閑散な生活道路上への注意を徹底しましょう。

3. コメンタリー運転の実践で事故防止

「歩行者注意」・「自転車注意」など、声に出して、危険と思われる対象を正確に把握し、認知ミスを防ぎましょう。

4. 過去5年間ににおける発生事故に係る支払共済金

2019年度の対人・対物共済の支払共済金は11億6,197万円で、対人共済では前年度と比較して1億9,391万円の増額となり、過去5年間で最も高額となりました。

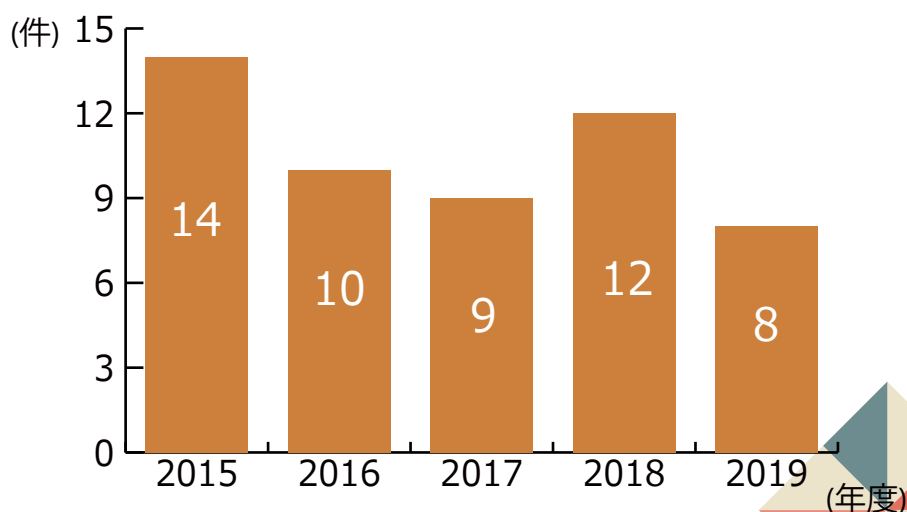


5. 過去5年間ににおける高額賠償事案の事故発生概況

(1) 対人共済

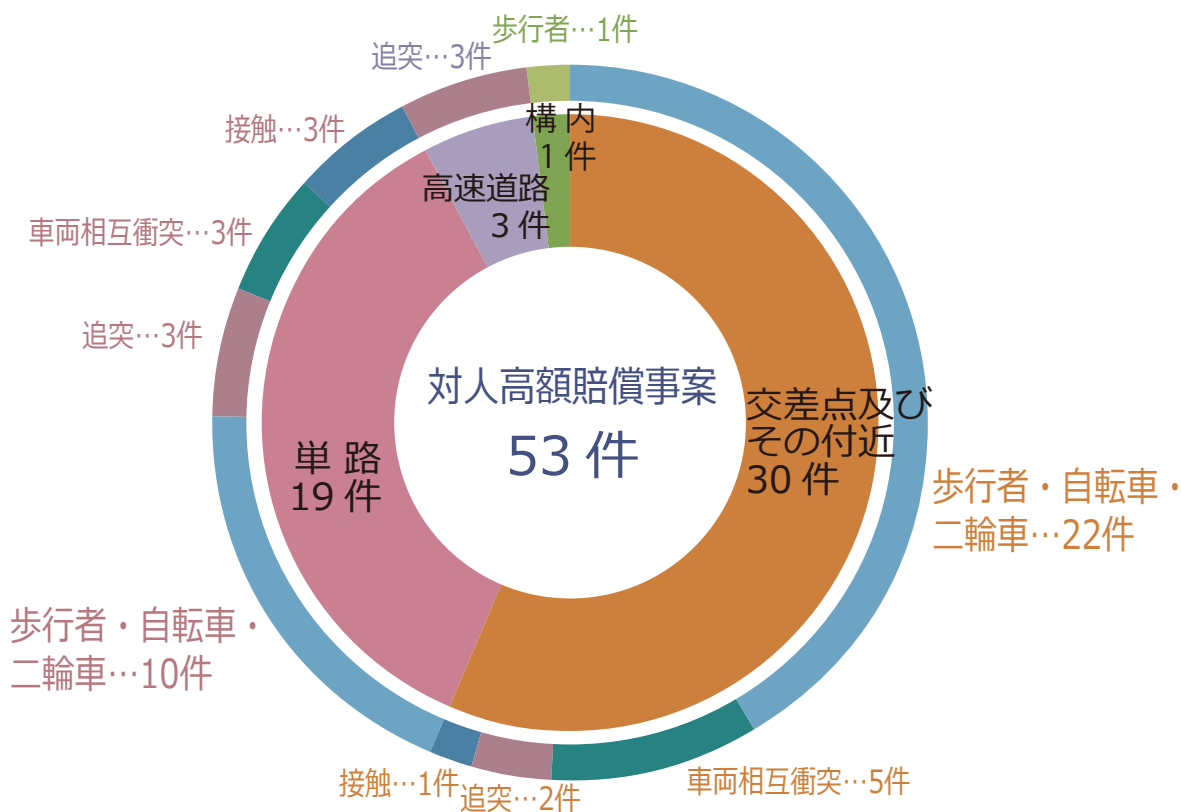
① 高額賠償事案(1,000万円以上)の事故発生状況

過去5年間ににおける高額賠償事案は53件で、2019年度は8件と過去5年間で最も少ない件数となりました。



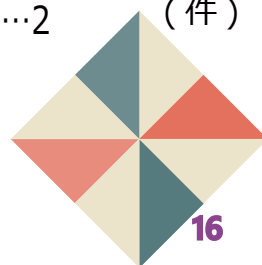
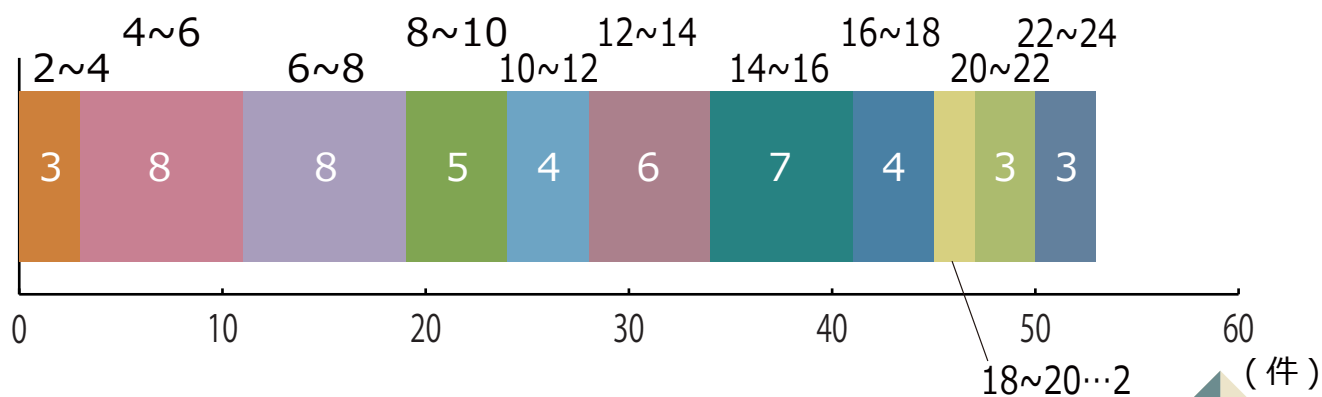
② 道路形状別の事故発生状況

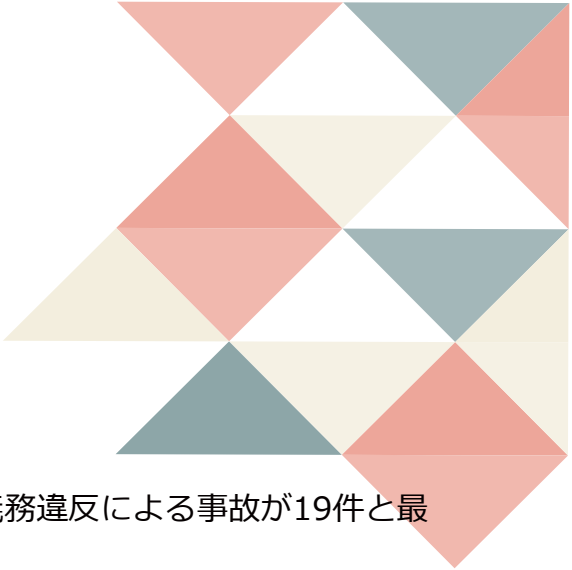
道路形状別では、交差点及びその付近で30件、単路で19件発生しており、その多くは交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が占めています。



③ 発生時間帯別の事故発生状況

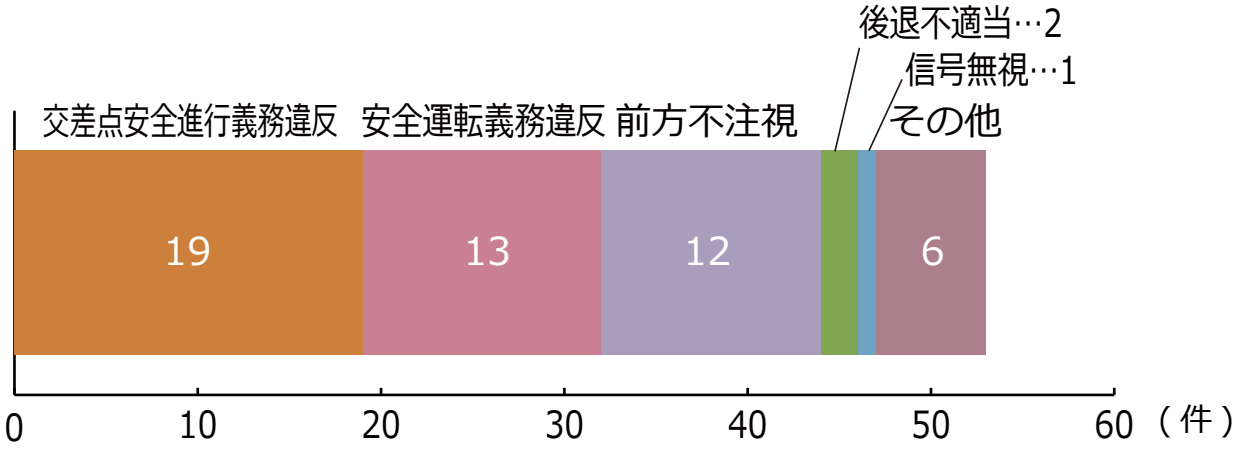
発生時間帯別では、交通量が少なく、スピード超過になりやすい4時から6時、通勤・通学時間帯と重なり交通量や歩行者が増える6時から8時までの時間帯に多く発生しています。





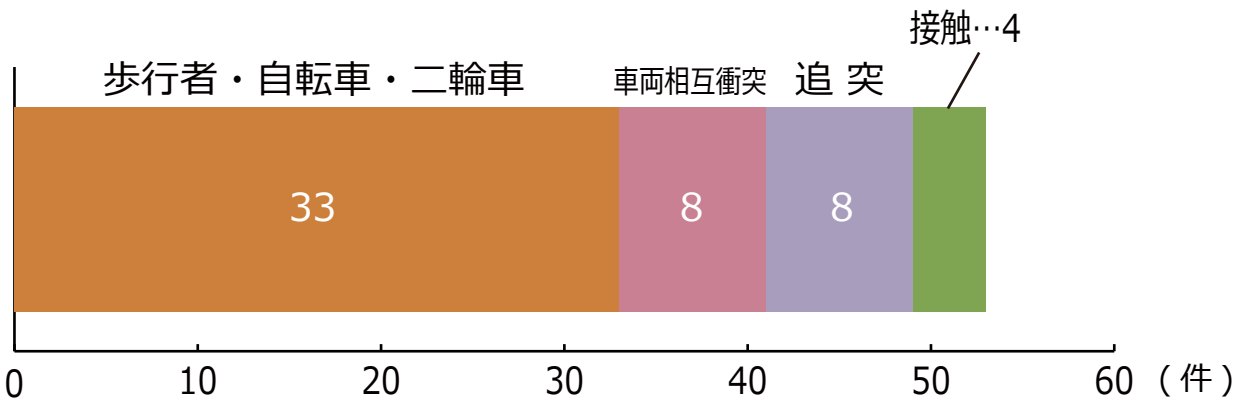
④ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反による事故が19件と最も多くなっています。



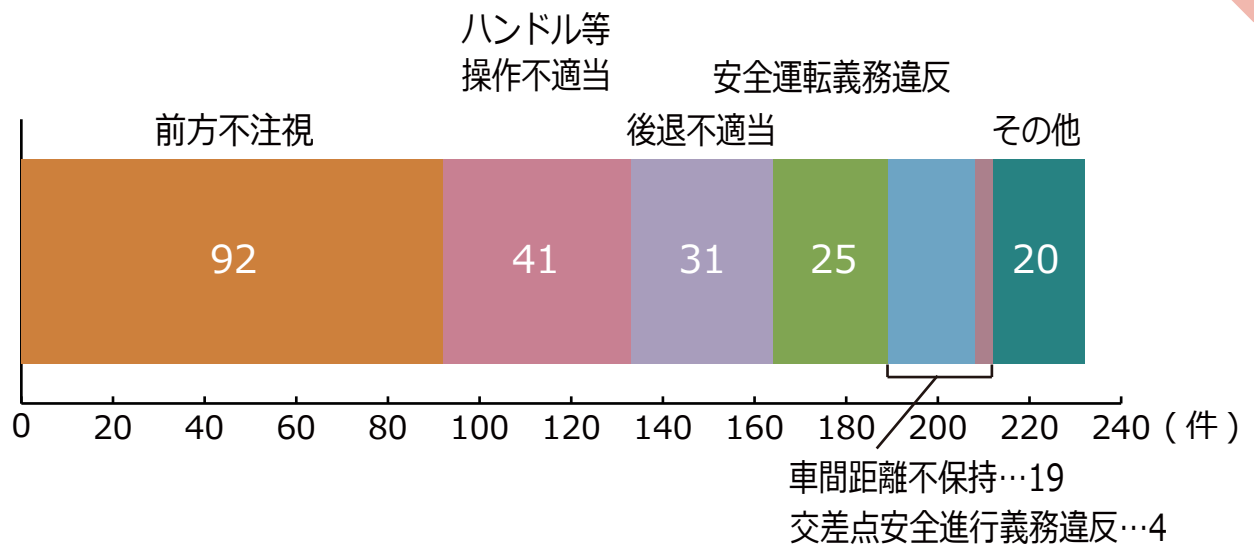
⑤ 類型別の事故発生状況

類型別では、交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が62.3%を占めています。



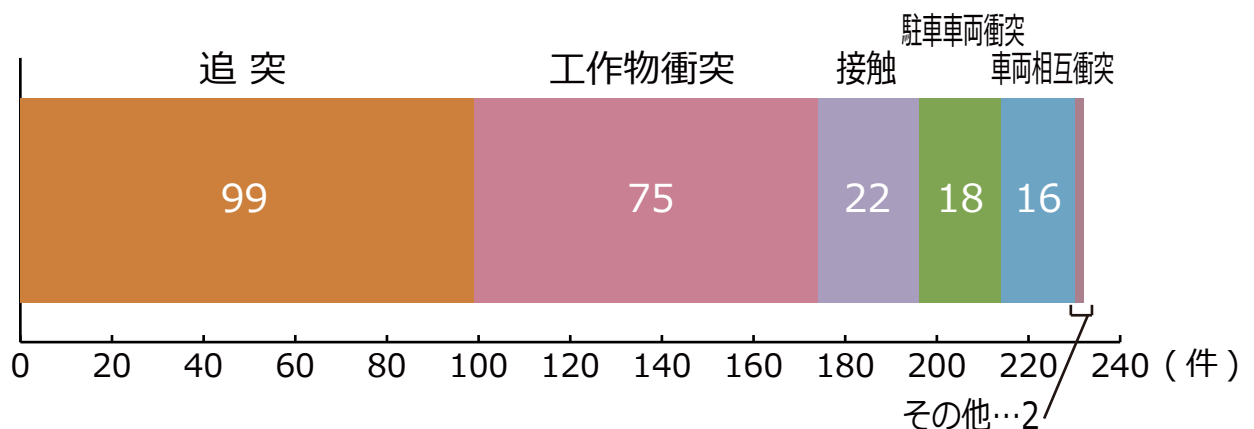
④ 原因別の事故発生状況

原因別では、前方不注視による事故が92件と最も多く、次いでハンドル等操作不適當、後退不適當が多く発生しています。



⑤ 類型別の事故発生状況

類型別では、追突事故が99件と最も多く、次いで工作物衝突事故が75件と多く発生しています。近年では工作物衝突による事故が高額賠償事案となる傾向があります。



6. 過去5年間に於ける運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

（1）運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、40歳代による単路の事故が880件と最も多く、次に構内事故の40歳代（872件）、50歳代（837件）となっています。また、年齢層別における構内事故の割合は、50～59歳で34.6%、60～64歳で36.4%、65歳以上40.8%と、年齢が高くなるにつれて構内事故の比率も高くなる傾向にあります。

(件)

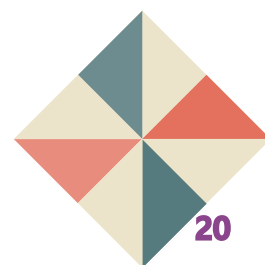
区分	年齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不明	合計
交差点及びその付近		17	225	304	772	651	231	225	1	2,426
単路		20	255	346	880	706	235	310	5	2,757
高速道路		5	82	114	300	218	66	64	1	850
構内		11	163	329	872	837	305	415	23	2,955
その他		0	0	6	6	4	2	3	1	22
合計		53	725	1,099	2,830	2,416	839	1,017	31	9,010

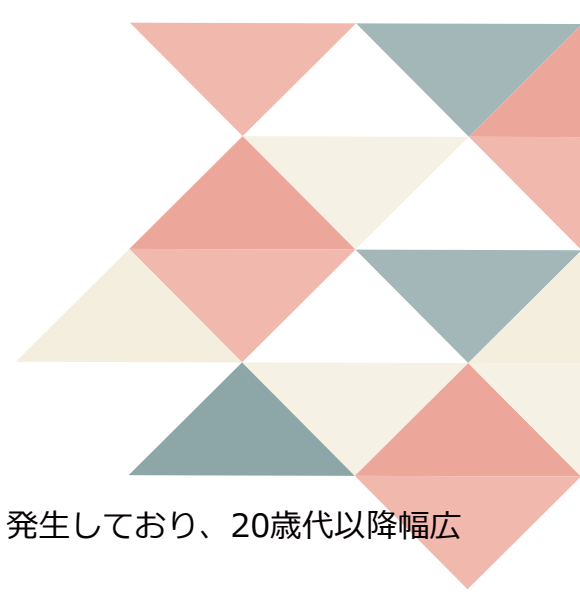
（2）運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、20歳代は追突、30歳代と50歳以上では工作物への衝突、40歳代は車両相互の接触が最も多くなっています。

(件)

事故類型	年齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不明	合計
車両相互	追突	14	195	217	506	386	107	144	1	1,570
	逆突	1	37	45	121	94	59	47	0	404
	接触	8	156	270	741	591	186	218	5	2,175
	その他衝突	8	55	102	257	212	76	67	5	782
車両単独	駐車車両衝突	6	62	111	239	259	109	150	2	938
	工作物衝突	11	164	275	711	661	223	326	2	2,373
	その他	1	5	20	46	38	7	8	15	140
歩行者・自転車・二輪車		4	51	59	209	175	72	57	1	628
踏切・その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		53	725	1,099	2,830	2,416	839	1,017	31	9,010





(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別では、10時から12時の時間帯に事故が最も多く発生しており、20歳代以降幅広い層で同じ時間帯に事故が発生しています。

(件)

時間帯 \ 年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
0~2	0	3	22	59	46	18	12	3	163
2~4	1	16	19	67	64	19	14	2	202
4~6	0	24	54	142	116	41	50	2	429
6~8	10	85	117	338	284	95	104	3	1,036
8~10	7	150	189	514	402	152	191	4	1,609
10~12	7	142	242	526	488	176	222	8	1,811
12~14	12	98	143	403	356	123	167	1	1,303
14~16	8	92	116	316	301	94	119	4	1,050
16~18	6	64	87	211	179	61	79	1	688
18~20	2	31	60	122	79	27	34	0	355
20~22	0	15	30	68	51	16	16	1	197
22~24	0	5	20	64	50	17	9	2	167
合計	53	725	1,099	2,830	2,416	839	1,017	31	9,010





高齢運転者への事故防止ワンポイントアドバイス

一般的に、加齢による身体機能の低下に伴って、周囲への注意不足による認知の遅れ、判断の誤り、ハンドルやブレーキ操作による操作上のミスなどが起こりやすくなり、事故につながる恐れがあります。65歳以上を対象とした適齢診断の結果などを参考にさせていただき、事業主および管理者の皆様におかれましては、社員の安全を守るため、社内での安全運転指導をお願いいたします。

1. コメンタリー運転の実践

加齢に伴い、若い時よりは危険に対する気づきが遅れがちになります。目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ちコメンタリー運転を実践し、周囲への注意喚起を徹底しましょう。

2. 「注意力」「集中力」の維持

センターラインを踏んだら要注意。「集中力」・「注意力」が低下している可能性があります。悪化すれば、対向車との衝突事故を起こす可能性があるため、より一層の「集中力」・「注意力」への意識を高め安全運転に努めましょう。

3. 過信せず安全確認をしっかりと

キャリアを過信せず、慣れた道でも慎重な運転を心掛け、常に安全確認を忘れないようにしましょう。

4. 健康管理の徹底

自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、プロ意識をもって日々安全な運行が行えるよう自己管理を行ってください。



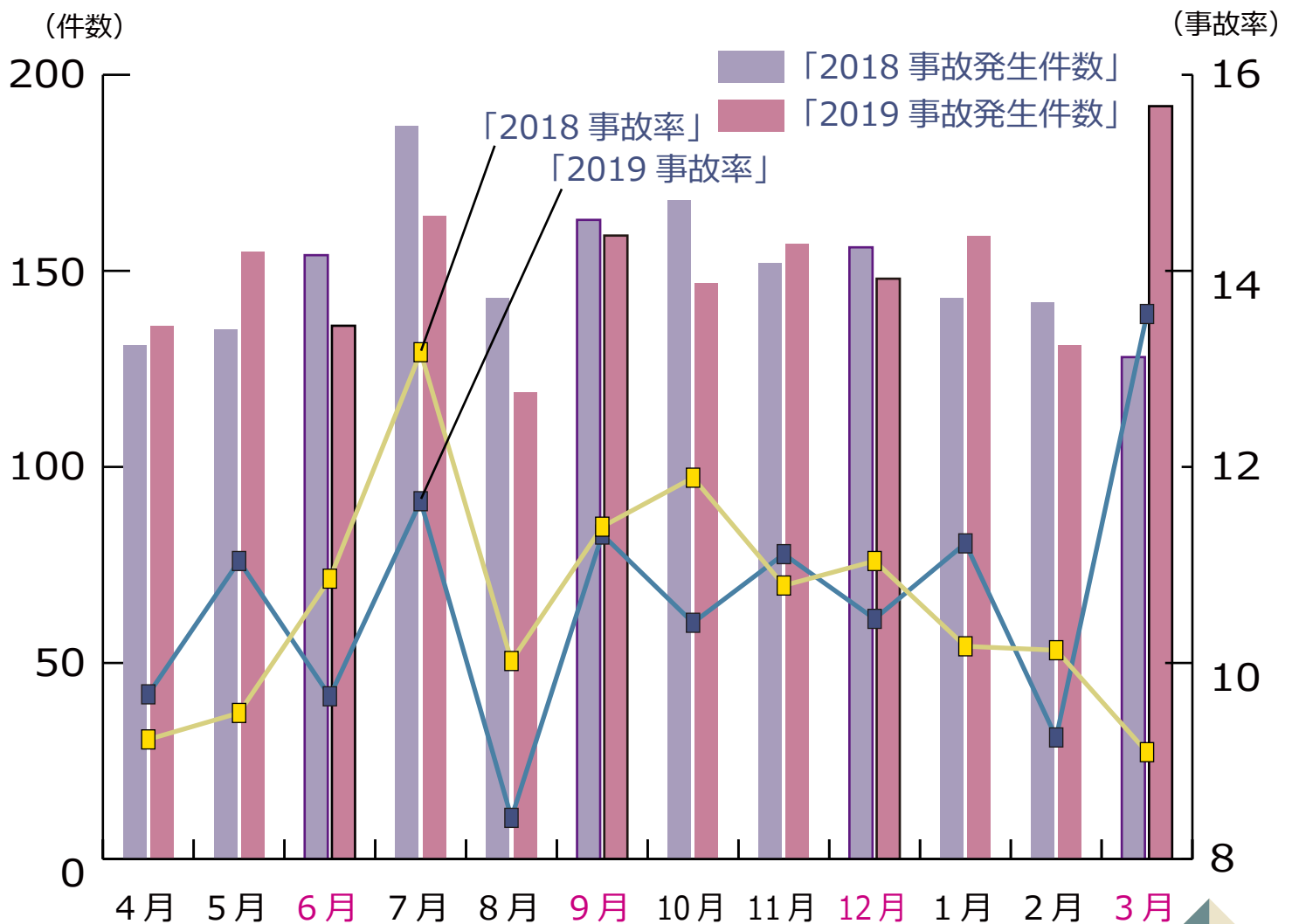
7. 2019年度交通事故防止強化月の事故発生状況

2019年度は6月、9月、12月、3月の4か月間を交通事故防止強化月に設定し、運転者講習会の開催、事故防止機器の利用促進、安全情報の配信などに取り組み事故防止を推進しました。

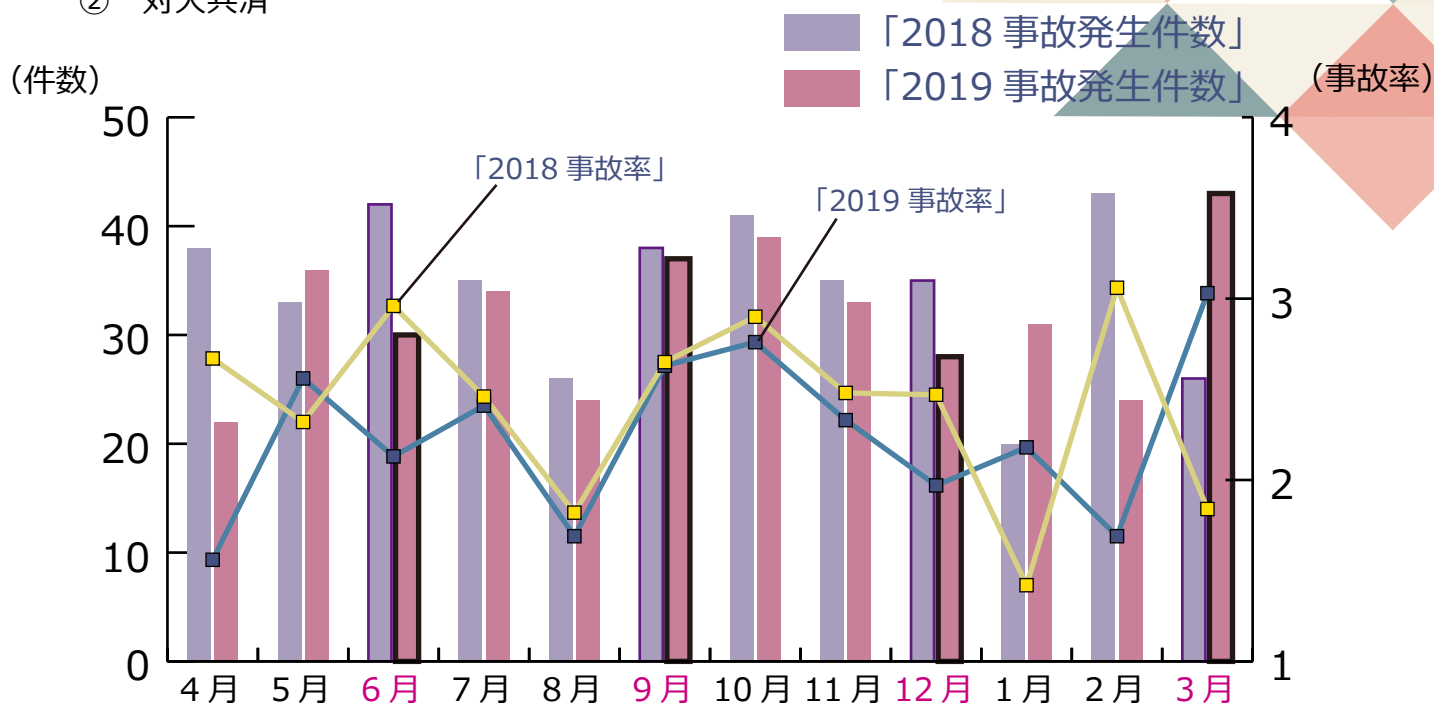
(1) 月別事故発生件数・事故率

① 全事故

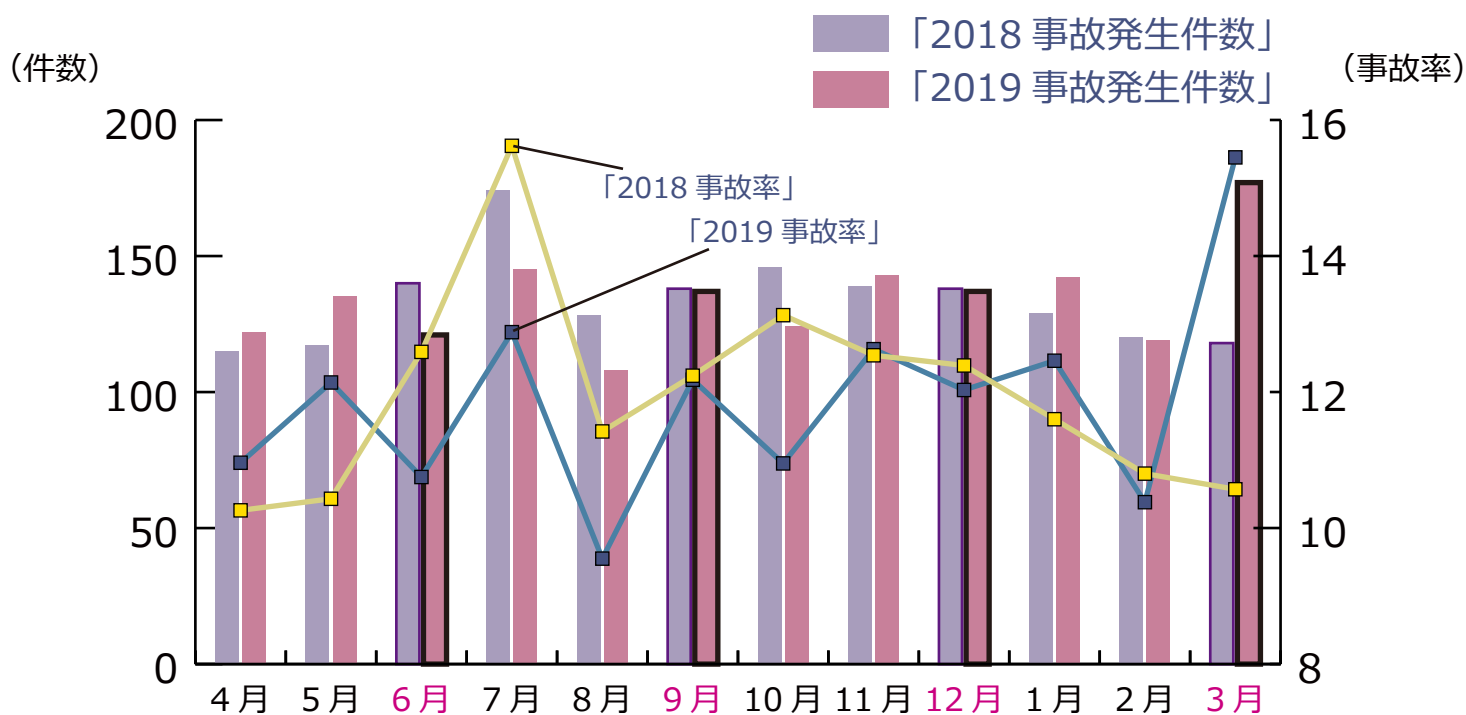
設定した強化月（6月、9月、12月、3月）の4か月間では、前年度比で34件増加しました。3月を除いては全ての月で減少しましたが、3月は192件（+64件）と大幅な増加となり、事故率も13.56と大変高い数値となりました。



② 对人共済

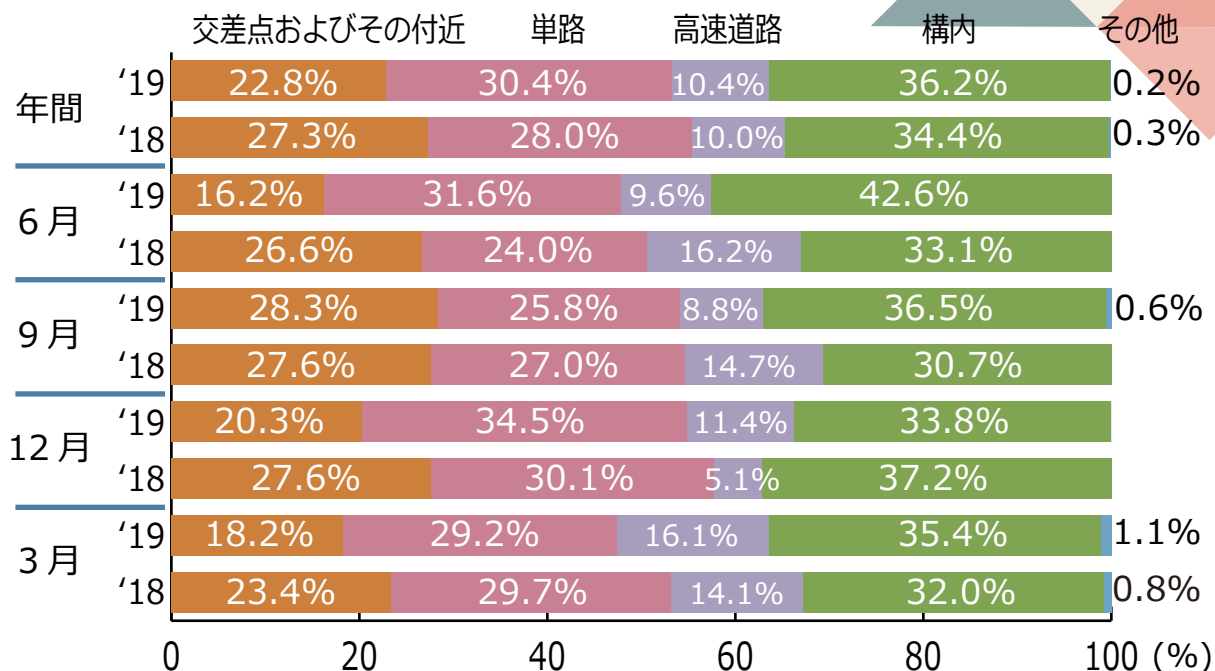


③ 対物共済



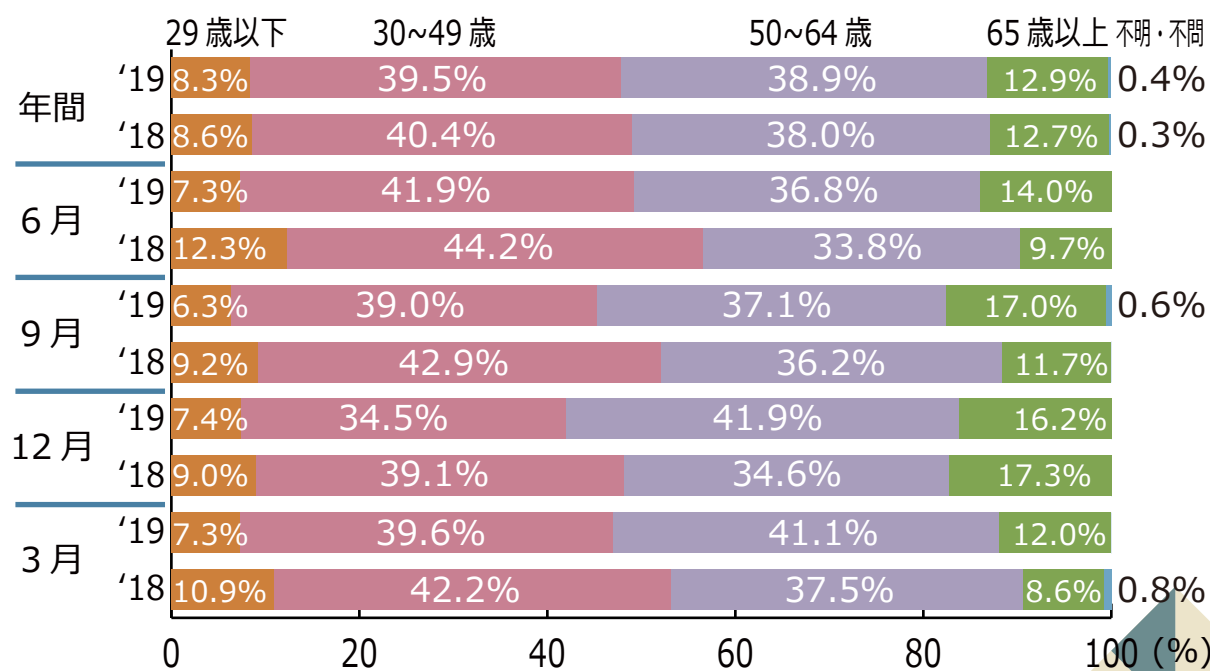
(2) 道路形状別事故発生割合（全事故）

道路形状別では、交差点及びその付近が6月、12月、3月で減少したものの、単路が6月、12月で増加しました。



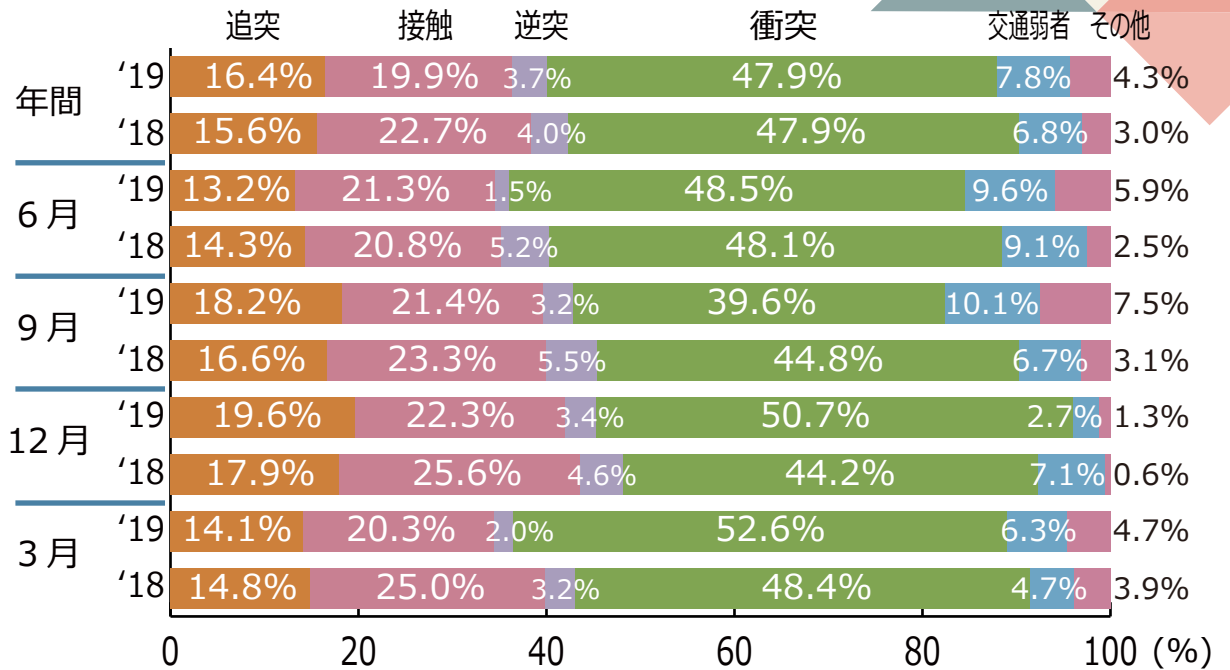
(3) 運転者年齢層別事故発生割合（全事故）

運転者年齢層別では、29歳以下、30～49歳がすべての強化月で減少しましたが、50歳から64歳の年齢層において、すべての強化月で増加しました。また、65歳以上の年齢層において、12月を除くすべての強化月で増加となりました。



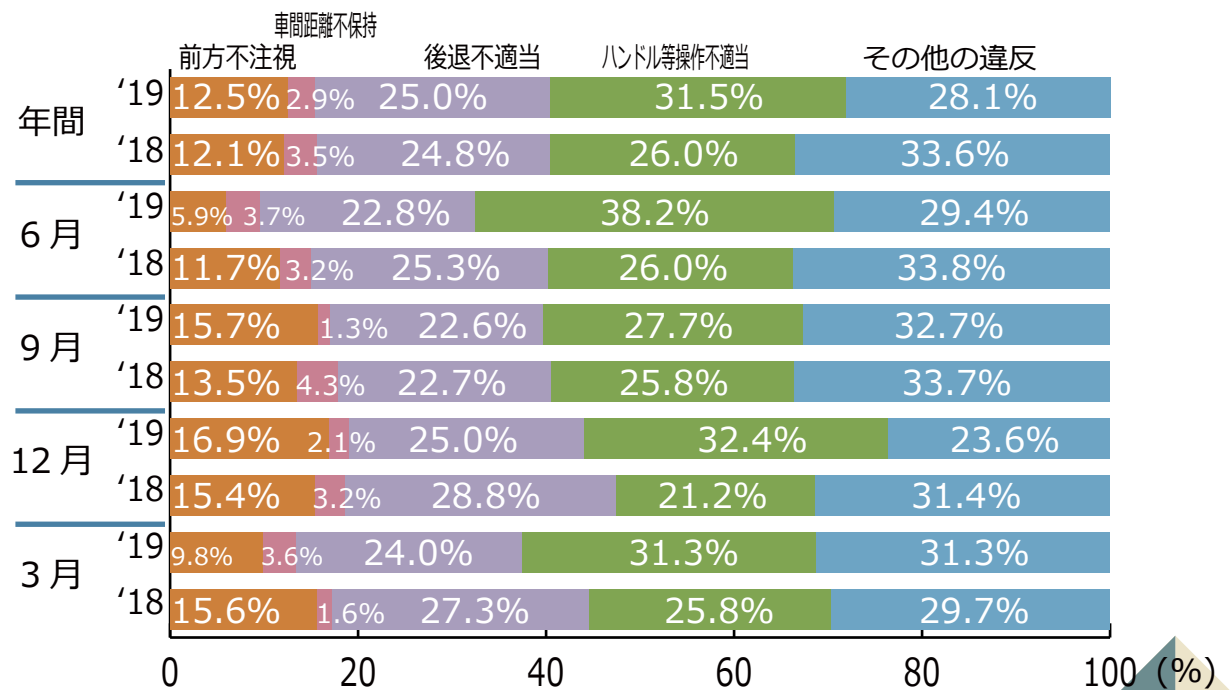
(4) 類型別事故発生割合 (全事故)

類型別では、追突は6月、3月以外が減少、接触はすべての強化月で減少、衝突は9月を除く強化月において増加しました。



(5) 原因別事故発生割合 (全事故)

原因別では、前方不注意は9月、12月が増加、後退不適當はすべての強化月において減少しました。



8. 交協連傘下15組合の2019年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

(1) 事故発生状況（対人・対物事故）

区分		神奈川	15 組合合計	15 組合平均	神奈川の割合
共済種目別		(件)	(件)	(件)	(%)
対人	発生件数(件)	381	5,485	366	6.9
	死者数(人)	5	110	7.3	4.5
	傷者数(人)	473	7,009	467	6.7
	100両当りの事故件数	2.25	—	1.75	0.5(平均との差)
対物	発生件数(件)	1,610	28,672	1,911	5.6
	100両当りの事故件数	11.86	—	10.07	1.79(平均との差)

(2) 原因別事故発生状況（対人事故）

区分	神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
事故原因別	(件)	(%)	(件)	(%)
前方不注視	135	35.4	2,335	42.6
車間距離不保持	37	9.7	505	9.2
後退不適當	26	6.8	295	5.4
ハンドル等操作不適當	73	19.2	546	10.0
徐行違反			15	0.3
左折違反			224	4.1
右折違反	1	0.3	193	3.5
一時停止違反			39	0.7
最高速度違反			1	0.01
優先通行違反			24	0.4
追い越し違反			61	1.1
横断(転回)違反			23	0.4
信号無視	5	1.3	105	1.9
酒酔い・酒気帯び			1	0.01
安全運転義務違反(安全速度)			21	0.4
安全運転義務違反(その他)	30	7.9	751	13.7
交差点安全進行義務違反	49	12.9	231	4.2
不明・その他の違反	25	6.5	115	2.1
合計	381	100	5,485	100

(3) 類型別事故発生状況 (対人事故)

区分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車両	追突 (走行中)	20	5.2	513	9.4
	追突 (停止中)	168	44.1	2,012	36.7
	正面衝突	4	1.1	62	1.1
	側面衝突	9	2.4	346	6.3
	接 触	66	17.3	1,184	21.6
	その他	29	7.6	290	5.3
	小 計	296	77.7	4,407	80.4
	(うち 自動二輪・原付)	45	11.8	421	7.7
歩行者		27	7.1	314	5.7
自転車		50	13.1	582	10.6
単独 (その他)		8	2.1	182	3.3
合 計		381	100	5,485	100

(4) 運転者年齢層別事故発生状況 (対人事故)

区分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
年 齢		(件)	(%)	(件)	(%)
20 歳未満		2	0.5	27	0.5
20~24 歳		19	5.0	229	4.2
25~29 歳		26	6.8	278	5.1
30~34 歳		15	3.9	300	5.4
35~39 歳		29	7.6	387	7.1
40~44 歳		39	10.3	576	10.5
45~49 歳		66	17.3	896	16.3
50 歳以上		185	48.6	2,792	50.9
合 計		381	100	5,485	100

(引用：令和元年度 交通共済統計年報データ)



神奈川県自動車交通共済協同組合

〒222-8582

横浜市港北区新横浜二丁目 13 番地 4

TEL . 045-475-2134 FAX . 045-475-2144

HP : <http://shinkokyo.or.jp>

(2020/09/30)